昭和51年（1976）5月20日

No. 165

大豊町の概要

位置	東経 133度37分　北緯 33度56分
面積	320.56平方粁　東西 32粁
	南北 28粁　部落数 87
人口	11,318　男 5,445　女 5,873
世帯数	3,656（3月末日現在住民基本台帳調）

館報 大豊

昭和51年5月20日発行
全世帯配布
編集　館報大豊編集委員会
発行　大豊町中央公民館
印刷　高知印刷株式会社

町勢発展に成果期待

19億1789万7千円

～～～51年度当初予算決まる～～～

普通建設事業費94％伸び

大豊町第百六十五定例議会は、三月十日開会、五十一年度一般会計当初予算十五億三百二十三万円、同国保特別会計予算三億三千八十六万円、公立学校および教育施設の使用料徴収条例公民館使用料徴収条例、手数料条例の各一部改正など二十六議案を一括上程、十九日採決閉会した。

一般会計当初予算は、前年度当初（十二億四千四百四十八万円）に比べて二〇・八％の伸び、特に普通建設事業費は四億四千三百七十四万円と前年度に比べて九四％の大幅な伸びとなっているが、一方物件費は一億四千八十八万円と一二％に抑えて投資的経費に重点をおいている。

歳出の性質別では、総務費三億四百五十一万円、民生費二億一千九百七十四万円、衛生費五千五百七十九万円、農林水産業費二億七千五百四十六万円、土木費七千百八万円、教育費二億二千二百四十六万円、災害復旧費一億三千二万円などで、事業の主なものは就業改善センター七千三百五十万円、古屋線など林道二十五件、林道災害復旧費五千三百六十四万円本村線など農道三線新設改良工事費四千六百六十万円、桑瀬線など林道開設改良工事費四千百三十万円、町観光開発協会助成金三千五百六万円、大田口小体育館建設費三千五百万円、西庵谷線など十線町道開設改良工事費三千二百三十万円などが主なものとなっている。

手数料条例の改正では、賦課令書、納付告知書、納付書の再交付を現行の二十円から五十円に、督促の交付を現行の四十円から百円にアップ。また公立学校、教育施設の使用料徴収条例の改正では、現行の二百―三百円を四百―六百円に、公民館の使用料徴収条例改正では、結婚式使用料金現行五千円を一万円とするなどの内容で、四月一日から実施となっている。以下門田町長の説明要旨の中からひろってみることにした。

投資的経費に重点置く
町民の需用に対応
町債は大幅に導入して
町長説明（要旨）

昨年の国勢調査で、人口が全国に比較して約一千四百人減少したことにより、人口を測定単位とする基準財政需要額の落ち込みが予想されること、投資的経費の一部が需要額から地方債へ振り替え措置がとられたことなどのため、前年度に比較して一〇％前後の伸びにとどまるものと推計される。

高度経済成長期に、地方財政は依存財源が極めて順調な伸びを示し、依存財源を重視するあまり、自主財源にかける比重は極めて低く、これを軽視する傾向すら見られたが、今後このような財政構造に復元する期待は殆んどない現状に鑑み、将来への展望にたって自主財源の重要性を再認識して、徹底的な見直しを行う必要があると存ずる次第である。

即ち、地方自治の原点に立ちかえり、負担分任の原則にのっとり、自主財源の確保と増収に努めなければならない。このような観点にたって町税の課税対象の完全な把握に努めるとともに、適正な課税と公平な徴収を行い、町税の増収を図るとともに、使用料、手数料、地元負担金等の料率についても改善合理化を実施する所存である。

昭和五十一年度予算の所要財源の主なものとしては、地方交付税六億五千九百六十六万八千円、県支出金二億一千三百八十一万九千円、国庫支出金一億五千二十六万五千円、町税一億四千九百六十九万一千円、町債一億七千六百七十万円等を見込み計上した。

町債については、前年度に比し、五一％増と大巾に伸びて、予算総額の一二％弱を占める結果となっているが、これは財源不足に対処する措置として地方債が大巾に増額されたこと及び、新たに町道整備事業債が設けられたことによるものである。これにより、公債費が今後の町財政に及ぼす影響は大きく、財政硬直化が憂慮されるところであるが、これの償還については、国において地方財政を圧迫しない配慮がなされているところであり、町債はできる限り大巾に導入して住民需要に対応してまいりたいと考えゐ。

歳出については、町民の生活安定と福祉の充実に配意し、一般行政経費については、これを厳しく抑制するとともに、財源の重点的配分と経費支出の効率化に徹することを基本方針として、投資的経費の充実に努めた。その結果一般会計の予算規模は、十五億三百二十三万円で前年度比二〇・八％の増となり、地方財政計画の伸び率を上回る結果となった。中でも普通建設事業費は四億四千三百七十四万八千円で前年度比九四％の大巾な伸びとなった。

その反面物件費は、一億四千八十八万八千円で、対前年度比一二％増にとどめた。このように消費的経費の思い切った節減を図るとともに、投資的経費の増大、住民生活に密着した諸施策の推進に意を用いたことにより、町勢進展に大きな成果を期待し得るものと考えている。

〔道路整備〕

昭和四十八年度以降開設事業がストップせざるを得ない状態となり、開設、改良計画が大巾に遅れたことは遺憾であるが、取り敢えず五十一年度は三千二百三十万円で西庵谷外九路線の開設、改良工事を実施することとした。今後は三年間の遅れを挽回するために、機会を捉えて更に整備を急ぐ所存である。継続事業で実施中の県営林道大田口大久保線外五路線については、一億九千万円の事業費で延長合計一千九百二十二尺の開設を行うことにした。県単林道の開設については峰支線のほか、新たに立川桑瀬線が対象路線として認定されたので、五十一年度から開設を始めることとして二路線の事業費二千四百二十万円を措置した。

土地改良事業で実施しております農道新設改良事業は、農道川井線ほか三路線について総事業費七千二百二十七万六千円で実施することとした。木町は第一次林業構造改善事業の指定をうけ、各種事業を実施して、相当の成果をおさめてきたが、更に第二次の指定を受けて事業を行いたいと考え、五十年度に調査、検討を進め関係上級機関と協議を重ねてきたが、五十一年度から四ケ年の継続事業として事業を実施する運びとなり、その初年度に当る五十一年度は、道路関係では、林道高山線開設延長四百三十尺及び協業林道中内線延長百九十尺の開設工事を実施することとし三千百六十四万円を措置した。その他舗装事業では、大彩大田口線ほか二路線一千百五十二万円を計上した。

〔防災対策〕

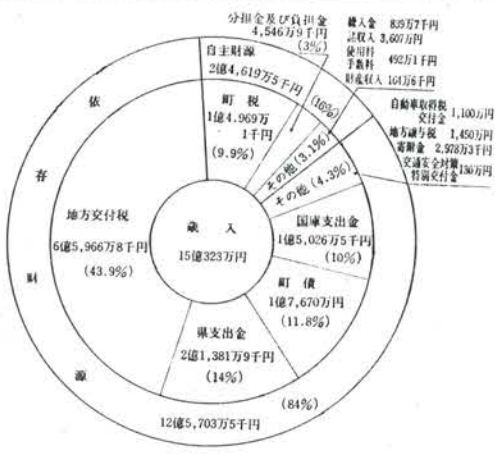
農業用施設災害復旧費五件で二千三百六十九万三千円、林道災害復旧費二十五件で五千三百六十四万六千円、両単独事業で実施する農作災害復旧費九百十五万円、公共土木災害復旧費十一件一千百五十一万四千円、町単独土木災害復旧費三百万円等、合計七千九百万円を措置した。これにより五十年までの災害は殆んど復旧される見通しである。その他、林地崩壊防止事業は磯谷ほか三件で八百四十九万円、がけくずれ住家防災対策事業は八件で九百五十八万八千円、法定外河川美化対策事業は三件で百六十万円、危険住宅移転

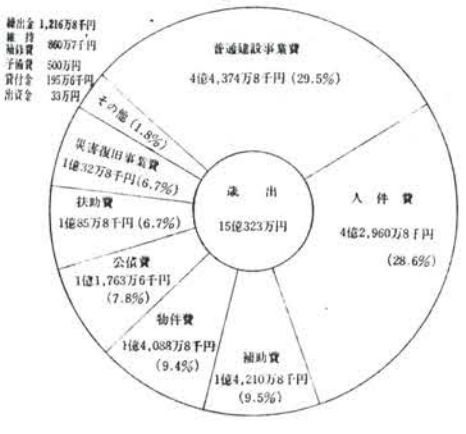
（以下二面へつづく）

51年度目的別一般会計予算

★予算額　15億323万円　◇割合　100％
⊙町民一人当たり　13,298円　（51.4.1現在人口 11,304）

議会費 ★ 4211万4千円 ◇ 2.80％ ⊙ 373円	土木費 ★ 7108万7千円 ◇ 4.73％ ⊙ 629円
総務費 ★ 3億451万8千円 ◇ 20.26％ ⊙ 2,694円	消防費 ★ 5228万5千円 ◇ 3.48％ ⊙ 463円
民生費 ★ 2億1974万円 ◇ 14.62％ ⊙ 1,944円	教育費 ★ 2億2246万円 ◇ 14.80％ ⊙ 1,968円
衛生費 ★ 5579万9千円 ◇ 3.71％ ⊙ 494円	労働費 ★ 1億32万8千円 ◇ 6.67％ ⊙ 888円
農林水産業費 ★ 2億7546万6千円 ◇ 18.32％ ⊙ 2,437円	公債費 ★ 1億1763万6千円 ◇ 7.83％ ⊙ 1,041円
商工費 ★ 3679万6千円 ◇ 2.45％ ⊙ 325円	予備費 ★ 500万円 ◇ 0.33％ ⊙ 44円





住民福祉の充実期す
農協合併企業誘致に全力

（一面からつづく）

補助事業では三件三百十六万七千円をそれぞれ措置した。

治山、治水、地辺り対策については、国、県に対し強力な要請を行い、事業量の増大を図り、町土保全と民生安定の実を挙げるよう最善の努力を払う決意である。

〔農林業振興対策〕

町の盛衰にかかわる重要課題であるが、振興を期するためには、国、県、町の強力な農林業施策と相まって、その母体となる農業協同組合及び森林組合の充実強化が必要である。そのため五十一年度は、農協基盤の確立を図り、充実強化に資するため町内一農協の実現に積極的に取り組む方針である。

また、森林組合に対しては、林業構造改善事業を実施することにより、組合の全な発展に寄与したい。

五十一年度の主たる事業と致しましては

県単山林振興特別対策事業を実施することとし事業費七百六十七万二千円を計上している。

この事業内容は、耕作道の整備、桑園造成、しいたけ栽培の省力化事業等となっている。養蚕関係については、生産性の向上と体質改善をはかり、養蚕経営の安定と農家所得の向上に資する事業として養蚕主産団地育成事業を実施することとして、事業補助金二百二十二万八千円を措置した。

林業振興の一環として実施する林業構造改善事業の、五十一年度林道開設以外の事業としては、集材機、クレーン等を設置する素材生産施設設置事業及び貯木場の整備、増設等のチップ生産施設事業を実施するほか、後年度に実施が予定されておる高度集約協業団地経営計画を策定することとして、これらの事業補助金八百六十七万六千円を措置した。

〔商工観光〕

商工業経営の改善合理化を推進し、その振興を図るため、経営資金として八十万円を補助することにした。

木町の観光事業は、大豊町観光開発協会を主体として推進しているが、発足以来日もあさく、独立採算は程遠い現状であるので、運営経費及び償還金として三千五百六万四千円を助成することとした。町内に魅力ある就労の場を設け、都会へ流失する優れた労働力を町内にとどめ、町民所得の向上を図ることが過疎現象に終止符をうち、木町発展の大きな原動力となることを確信して、現在川口南に造成中の工業導入用地は、五十年度をもって完成する予定であるので、五十一年度は企業誘致に挙町一致の態勢で全力を傾注する覚悟である。

経済不況のさ中で導入には幾多の困難が予想されるが、議会、工業導入特別委員会並びに工業導入審議会のご協力を得て、企業誘置を実現したい。

〔社会福祉対策〕

五十一年度も従来の方針を堅持し、国、県の施策は勿論、これに町独自の施策を加味して福祉の充実を図りたい。

即ち、身体障害者家庭及びねたきり老人家庭の奉仕員委託料の増額、長期入院患者に対する扶助料の増額等恵まれない人達に対するきめ細いサービス強化を図ると共に、各種協議会等に対する補助金を増額して、住民福祉の充実を期することにしている。

〔保健衛生〕

各種検診、疾病の早期発見につとめること及びワクチン投与、予防接種等により疾病を予防することが肝要であるので、五十一年度は対象者数の拡大を図り、住民の健康保持に寄与するよう措置、また、伝染病の発生を未然に防止するため各戸へ防疫薬剤を無料配付するための経費百十万円を措置した。目付地区は飲料水に恵まれず、不便な生活を強いられておるので、水不足を解消し、飲料水を確保するための施設を整備することに二百万円を措置した。

〔消防防災〕

木町の消防力は、団員、機械器具ともに相当充実したものとなったが、山腹の広範囲の地域に家屋が散在する木町の特殊性に鑑み、有事の際に水源が遠く迅速な消火活動ができない事態が憂慮されるので、防火水槽を四ケ所に設置すると共に、消火栓を三ケ所に設置することとし、百四十七万五千円を計上した。災害発生の際、電話線の切断等により通信が杜絶し、防災活動被害状況の把握等に支障なきを期するため消防無線を設置することにして百六十八万七千円を措置した。

〔教育振興対策〕

学校統合の推進、校舎及び体育館の新築、プール設置など順次教育施設も整備され、優れた環境と教育行政関係者の熱意、適切な指導と相俟って教育効果は年々向上しているが、更に積極的な振興を図り、教育の実を挙げなければならないと考え、建設事業の主なものとして西峰中学校のプール附属建物百五十万円、立川小学校体育倉庫五十四万円等を計上した。

〔国民健康保険特別会計〕

総額三億三千八十六万円で前年度比三〇・九％の伸びとなった。独立採算を堅持してきたが五十一年度においては、国において約九・一％の医療費の単価増が見込まれており、更に本町の被保険者の特殊性からして医療費は益々増加の一途にあり、国保財政の見透しも決して楽観は許されない現状である。従って五十一年度は当初において前年度繰越金九百万円を見込み異例の予算編成を行った。

〔簡易水道事業特別会計〕

総額七千七百四十九万円で、前年度に比較して大幅な増額となっている。これは、川口南簡易水道新設事業を実施するためのものであり、独立採算の維持は難しく一般会計から二百七十一万二千円の繰り入れ措置を講じた。

〔代替輸送事業特別会計〕

以上が主要施策の概要であるが、これにより昭和五十一年度の当初予算総額は十九億一千七百八十九万七千円で、前年度対比二四・五四％の伸びとなった。

悲願も空し死者件数共に増加
春の交通安全運動
「をかえりみる」

四月六日から十五日までの十日間、"春の全国交通安全運動"が実施され、本町においても、交通安全町民会議をはじめ、各種団体、個人等町民あげて交通安全の悲願達成をめざしたが、さてその結果はどうであっただろうか？

この期間中における諸行事や事故発生件数などふりかえって今後の安全活動に備えよう。

今回の運動目的は歩行者運転者及びその雇主、その他陸上交通に関係するすべての者に、交通安全思想を普及徹底し、正しい交通ルールの実践を習慣づけ、交通事故防止の徹底を図ろうというのがねらいで、町民会議においても①歩行者、特に子供の事故防止②自転車利用者の自故防止③シートベルト着用の推進を運動の重点としてとりあげた。

(一)生活ゾーン対策

歩行者及び自転車利用者の安全確保のため、通学通園路における違法駐車及び道路の不法占（使）用物件を排除し、歩行者等の通行のためのスペースを優先的に確保する。集落地の青空駐車及び道路敷に放置してある廃車車輛の一掃。

(二)交通安全教育及び指導

▼保育園児＝昭和五十年卒園児に黄色のカサを、新入及び在園児には黄色の帽子を配付。

▼小学生＝ストップマーク（足型）の書き換え、通学路の点検を子供にさせ交通安全の意識高揚を図る。自転車を購入配付し安全走行を学校で練習させる。

▼中学生＝自転車通学生を対象に、夜光反射のラコンテープを配付する。

▼高校生＝自動二輪車の町道等での、無免許練習走行及びノー・ヘルメットの解消と安全運転の指導。

▼運転者＝ゆっくり走ろう運動の立看板を作製設置し管理者協議会への加入呼びかけを行い、既に管理者を設置しているところは、カーブ・ミラーの清掃等安全施設の整備点検を行う。

▼運転者＝ゆっくり走ろう運動の立看板を作製設置し経済速度による走行の励行を喚起する。法規を守る会での自主的な安全運転講習会を通じドライバーの交通モラルと運転技術の向上を図る。新生活運動の普及促進を通じ、ほの会の協力を得て「飲んだら乗るな、乗るなら飲ますな」の実行を定着化させる。町道、林道農道での物損事故の多発化傾向を重視し、警察への事故届出の義務を周知徹底させる。

(三)広報活動

▼保育園、小学生向＝「とび出すな車のあとにまた車」のポスター、「交通安全のしるべ」「子どもの事故をなくそう」のリーフレット配布。

▼一般向け＝「春の全国交通安全運動」のチラシの配布及び有線放送による呼びかけ。

また、ゆっくり走ろう運動の立看板設置、各法規を守る会での桃太郎旗等の掲出、広報車での呼びかけ等が行われた。

この運動初日の六日には交通安全町民会議が中央公民館で開かれ、交通事故犠牲者に対する黙とう、安全功労者、優良運転者及びカーブミラー寄贈者の表彰ならびに感謝状贈呈が行われ、そのあと交通事故の概要とその対策、交通安全映画上映安全運動の実施方法等について協議した。この町民会議での表彰者は次の通り

▼優良運転者＝部築広、筱岡秀男、高木春太郎、小笠原寅蔵、松岡昇、秋田耕、小松豊太郎、上村由雄、山中洋利、部築武吉、小笠原行美、吉村優一、鈎井輝夫、伊藤伸一、上村胤明、小笠原良延、原勉、内田之長、恒石春利、平石重己、杉本孝雄、酒井久吉、岡村利、濱希川快二、西岡雄幸

▼安全功労者＝門田将男、溝渕浩、上村辰雄、川口小学校交通安全日治会

▼安全施設寄贈者＝藤組、栄枝善寛、吉永誠知、紀州木材株式会社、沖部落、川戸部落道路愛護会、川口交通法規を守る会、三谷太一

（以下三面左上段へ続く）

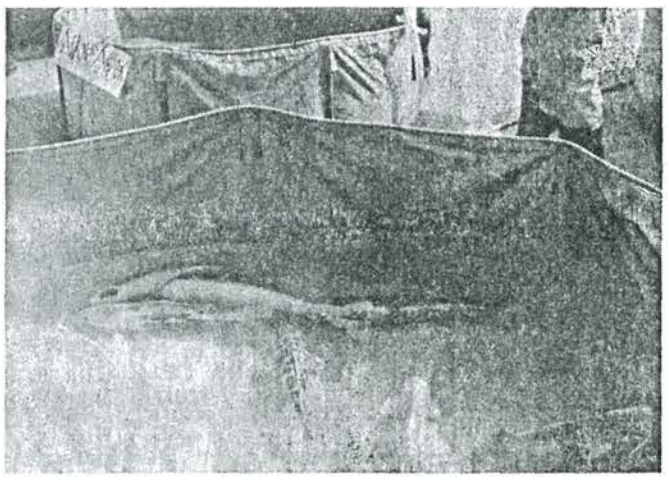
ストップマーク（足型）の書き換え（東豊永地区）

母の会によるカーブミラーの清掃　（大田口地区）

ご利用下さい
人権相談用留守番電話
大豊町人権擁護委員

三谷進一郎（笠田）
全　三谷一郎（東寺内）
全　小笠原義男（立川）

私どもは、本町の人権擁護委員として町民の皆さんから、人権問題について相談に応じていますが、このほど高知地方法務局（高知市小津町四番三〇号）ではお勤めの都合や病気、遠距離などで相談に出向くことが困難な方々のため、職員の退庁後や休日、祝日、夜間等、電話による人権相談がうけられるように「留守番電話」を設置したとの連絡が高知地方法務局長からありましたので、気軽にご利用下さるようお知らせします。



美しい錦鯉の品評会

〔写真上〕いけすの中を遊泳する錦鯉〔同下〕熱心に視る愛鱗家たち

大豊町文化推進協議会愛鱗部会（秋山信吉部会長、会員七十名）の大豊愛鱗会第一回品評会は、四月四日豊永公民館前の広場で開かれ、約二百人の観衆が集まった。

この日、午前九時町内のあちこちから愛鱗家たちが自慢の錦鯉、百七十尾を持ちよって互いに鱗美を競った。

それに、参考出品魚（無審査）三十尾を、土佐町上田基、沢田幸男、大豊町秋山信吉、西谷侑紀の四氏が出品し本品評会に花を添えた。

審査員は、池添嶺北愛鱗会長以下五名で、総合、体長別による各部及び色模様等の種別に分けて厳重な審査を行った。

今回の品評会は、初めての催しだけに、開催要領その他全般にわたって、不なれなことが多かったが、お互いの連帯感によってなごやかに運営された。

わけても、嶺北愛鱗会の理解と協力で器具、工具の提供をはじめ、設営その他全面的な支援によって、鱗の損傷もなく上々の成績を収めることができた。

この愛鱗部会は五十年二月に組織されたもので、今後は会員相互の親睦、技術の交流等により一層の研さんを積み重ねてゆく方針で、すでに一万六千尾の鯉の稚魚を購入配分するなどしているが、ことしの秋は嶺北愛鱗会と共催により品評会を開くよう計画が進められている。養鯉愛鱗に興味を持ちこの会に加入されたい方は、東土居西谷侑紀氏までご連絡下さい。

尚、品評会の成績次の通り。

全体総合優勝

河野大仁

嶺北 青協 理事＝笹岡盛政、高橋保治、笹岡寿男、県青協副会長小林康夫、理事笹岡寿男

愛鱗家二百尾を持ち寄る

成魚四部紅白笹岡秀男、幼魚三部、紅白小笠原俊一

各部総合優勝

◇二部 一位大正秋山信吉、二位大正秋山信吉、三位紅白武内義明、◇三部 一位紅白都築満喜、二位紅白長野利則、三位紅白小笠原俊一、◇四部 一位紅白小笠原俊一、二位大正秋山信吉、三位紅白秋山信吉

地区団の強化とリーダー育成

連合青年団総会

団長に笹岡寿男君再選

大豊町連合青年団（笹岡寿男団長）の総会が四月十八日中央公民館で開かれた。昭和五十年度事業報告と反省、五十一年度計画など九議案を審議し役員改選を行って午後四時散会した。

五十年度事業の決算額をみると、歳入で四十七万九千円（うち事業収入十二万円、地区団負担金六万八千円、補助金繰越金その他で二十九万九百円）、歳出で四十二万七千円、これに対する監査結果の報告などがあって、五十年度事業の審議を終え、続いて五十一年度計画を決定した。基本方針、重点目標並びに当初予算額は次の通り。

基本方針

低成長、不況、物価高等なにかと厳しい状況下でのスタートとなったが、こうした状況下にこそ我々青年団の重要性がとわれている。

我々青年団員は、いま一度原点にかえり、青年団活動を真剣に考え、団員相互の連帯を図りながら、地域社会の課題を発見し、それに対処できる青年団づくりをめざす。このため、仲間達と情報交換を行いながら互いに協調して仲間づくり（人づくり）を盛りたて、組織の強化と団結を図る。

昭和五十一年度の交通安全年間スローガンをあい言葉に今後も交通安全運動をつづけ、事故のない町づくり達成を目指しましょう。

運転者向け

〝運転が示すあなたのお人柄〟

歩行者向け

〝危ないと手をしかるより手を引こう〟

こども向け

〝とび出すな車のあとにまた車〟

重点目標

・地区青年団の強化（脱組織化の防止）

・リーダーの育成

五十一年度予算総額三十二万二千円

新役員＝団長笹岡寿男、副団長兼青年学級長福田繁治、副団長上村儀彦、同豊永みさ、体育部長三谷幸一郎、料研部長三谷久美子、事務局長前田幸太郎、書記小松俊久、監事今井敬典、

交通安全意識の高揚と川口小交通安全自治会

交通法規を守る会、交通安全母の会、子ども会（東豊永、東部、豊永、大田口杉）の三者合同による春の交通安全運動は四月十日、それぞれの地域中心地に集まって、横断歩道のストップマークの標示塗りかえ、県道のカーブミラー清掃、危険箇所の点検などを行い母と子の交通安全思想の普及徹底に努めた。

また表彰された川口小学校交通安全自治会は、毎月二十日には四年生以上の自転車通学生が学校に自転車をもち込んで安全走行の練習に励んできたがこうしたことが通学途中で車と対向する場合には必ず自転車から降りるなど運転者や地域住民からこうした子ども達の自転車通学マナーが高く評価されていたもので、表彰の副賞として自転車一台が贈られた。

このようにして町民ぐるみの交通安全運動が展開されたがさて、結果はどうであったろうか、大豊町内における事故発生件数は昨年春の交通安全運動期間中と比べて次表のように大幅に増加し、事故0の願いは空しく潰え去った。

年度	件数	負傷者	死者
50年度	二一	二一	〇
51年度	五一	七一	一

一年生に入学の三つ子姉妹

＜松浦家の朗報＞

黒石の松浦米実さん（36）と貴江さん（29）の間に生まれた三つ子の姉妹が四月十日、家族や周囲の人たちに祝福されてそろって大田口小学校に入学した。

昭和四十四年十二月十九日生まれの松代ちゃん（長女）、竹美ちゃん（二女）梅香ちゃん（三女）の三姉妹、今は立派に成長したが高知市内の病院で出産したときは未熟児で一ケ月間保育器で育てられた。特に二女の竹美ちゃんが虚弱で退院後も時々病気になり、保健婦さんが付き添って役場の車で（救急車がなかった頃）市内の病院にかけ込んだこともしばしば。それに

こんなに成長しました。（向って左から松江ちゃん、竹美ちゃん、梅香ちゃんの三姉妹）

補導よりも育成に力

運営委員長に小笠原四郎氏

大豊町青少年補導育成センター運営委員会並びに、補導員会が五月七日に開かれ昭和五十一年度計画を決定した。午前中の運営委員会で小笠原四郎氏を委員長に選出、午後の合同委員会ではそれぞれ活発な意見が出され、大要次のことを決定した。

一、補導関係

①列車内補導＝毎月五～六回乗車②自動二輪バイクモーターを運転する生徒の補導（指導）③高校生の下宿先訪問④町内各行事における補導。

二、育成関係

①社会教育関係諸行事への参加協力②公民館活動への協力③青年団活動への援助協力④在学青少年の育成⑤高校父兄連絡協議会との連携⑥バイクモーターの安全運転講習並びに競技会。

特に本年度は、補導より育成面に力を入れることを話し合った。補導育成センターの真の目的達成のため町民の皆さんの絶大な協力を強くのぞんでいる。

昭和49・9・23日以前の定額貯金証書をお持ちの方へ

郵便局では、昭和四十九年九月二十三日以前にお預けになった『定額貯金』を今後とも引き続きお預けになられる方のために、利息が有利になる手続き事務の取り扱いをしております。

この取り扱いは、昭和五十二年一月十三日までとなっておりますので、まだお済みになっていない方はお手元の貯金証書をお確かめのうえ、お近くの郵便局へお持ち下さい。詳しくは郵便局の窓口でどうぞ。

（町内郵便局）

詩吟クラブ

老人ホーム慰問

関西詩吟文化協会高知春風会豊永支部（上村高重支部長）同大豊支部（上村明伸支部長）の両支部の一行七名は、去る三月二十八日嶺北養護老人ホーム大豊園を慰問した。

メンバーは詩吟だけでなく、歌や踊りなど、なかなか多芸で、ちょっとした劇団を思わせるほどの公演ぶりであった。

最近、ホームの慰問者も少なくなっていることを聞いて実践にふみ切ったようである。老人達も聞った人達の素人ばなれした名演技にすっかり魅せられていた。詩吟の支部はこのほかに大杉支部（朝比晴重支部長）があり、公民館でそれぞれ練習に励んでおり、町長文化祭などでも活躍しているが、大豊支部長の上村さんは『詩吟は変化がなく、とっつきにくいが、字を多く覚えかつ、心身の最練にもなるので、公民館活動として定着化させたい。特に若い人に入ってもらいたい』とこのように話していた。

旅

（2）

大豊中学校長

門田　高繁

九月三日（水）晴

七時三十分ハンブルグ空港着陸。ハンブルグは日本との時差八時間、日本は三日の十五時三十分である。急に便意を催しトイレを捜す。地下にトイレがあることが表示でわかりかけ込む。有料便所である。大きなドイツ婦人が清掃している。ドイツコインは持っていないし、英語が通じるか疑問である。しかしこと急である。どうやら英語が通じアンカレジのアメリカコインが役立った。

〃〃〃〃〃〃〃〃ハンブルグ空港には　装甲車、カービン銃の兵隊とものものしい警戒ぶりである。何か威圧感があって緊張する。しかし待合室には可愛い少女もいて、男先生の何人かが五円や五十円の穴あきコインをプレゼントし国際親善を早速やっている。スカートに手を当ててヨーロッパ流の可愛いおじぎをくり返し、少しも物おじしない。母親らしい婦人はにこにこしながら、わが子の民間外交官ぶりを、静かに見守っている。自分も五円玉を渡した。五才位と見える少女が可愛い声で『サンキュウ』と英語で礼をいって握手をする。日本の子どもにも国際人としてのマナーを身につけさせなければと、感心させられるような光景であった。

ハンブルグを八時過ぎ出発、また機内食が出る。食事をことわってミネラルウォーターをもらう。ドーバー海峡を渡ったはずだが、莫々たる雲で、眼下は何も見えない。ロンドン郊外ヒースロー飛行場到着九時三十分、入国手続きのため出口に急ぐ。イギリス人、英連邦国人、その他の三種類に区別されて、パスポートのチェックがある。わたしたちの列は延々と長く三十分たっても、少しも出口に近づかなかった。そのうちまたトイレに行きたくなり、顔面蒼白となり、油汗が額ににじむ。女先生に手荷物を頼んで、トイレを探して回る。やっと目的を果してせいせいする。やがて英人用の出口がいくつか三国人用に転用されて入国手続きは速度を早めた。コンベヤーによって運ばれたトランクの点検が始まる。各自自分のを確かめたが、五班の班長のトランクのみ見当らず、一同始めてのトラブルにしゅんとなる。添乗の山崎さんがあちこちかけずり回って調査する。結局ハンブルグに積み残したことがわかりほっとする。おかげで税関はフリーパスとなり、空港バスに乗り込む。

〃〃〃〃〃〃〃〃ヒースロー飛行場より　M4と呼ばれる高速道路を通ってロンドン市街に向う。同じような家並が続き、車は右側を八十～百キで疾走する。アカシア、プラタナス、マロニエの並木霧のロンドンと呼ばれる原因となった採暖用の煙突が視界にとびこんでくる。

パスは半日市内見学のため、市の中心街へと進む。トラファルガー広場、ナポレオンを破り英国の危機を救ったネリソンの銅像が空高くそびえている。像の台座には四頭のライオン像（これはフランスからぶんどった大砲で鋳造されたもの）がにらみをきかしている。

ピカデリーサーカスのレストランで昼食になる。地下の食堂へ、薄暗くきゅうくつな感じ、荷物を持ったまま食卓につく。エチケットに反するらしいが、しかたがない。写真機のフィルムが差きとれず、食車についたままいじくり回すが、どうにもならない。いらいらするが東洋の紳士の体面を保たなければと思ってあきらめて、パックの中へしまって威儀を正す。ウエイターが注文をとりにくる。ジュースを頼む。ビール、ワインを注文する仲間もいたが、少し腹の調子がおかしいので遠慮した。

魚のフライはバルト海か北海あたりで獲れたカレイであろうか……、身がたすくて、あまりうまくない。グリーンピースがふんだんに出され、食べ切れなかった。ポンドと両替えに銀行に行くものもあり、リーゼント通りで少し休憩する。二階建てのバスが走る。女王陛下御用達の看板を掲げたいかめしい構えの商店も見える。紳士、淑女、老若男女が行き交う。ここはまさにヨーロッパロンドンである。だが地球の裏側までも遠くきているという感じがどうしてもしない。東洋の短足の中年男がペイヴメントにたたずもうが、パチパチところかまわず写真を撮ろうが、誰れひとりとして関心を示さない。個人主義に徹した、のびのびした自由さが感じられる。

〃〃〃〃〃〃〃やかて時間がきて　再びバスに乗り、バンク街を通り国会議事堂、ビグベンと呼ばれる大時計セントポール寺院等が建ち並ぶテームズ河畔を、ロンドン橋や映画「哀愁」でなじみ深いウォータールー橋など、いくつもの橋を渡りながら、ロンドン塔に向う。夏目漱石の小説で日本でもなじみのある名称のこの塔も、私の記憶の中には血生ぐさい権勢争いのとりでとしてのロンドン塔しかない。

かつては絶対主義王権を確立し大英帝国に君臨したエリザベス一世も、このロンドン塔に幽閉された苦い思い出が残っているのだ。

トレイターズ門からブラディ・タワー（血だらけの塔）をくぐるとホワイトタワーが見える。真直ぐに宝物館へ行く。多くの人の波にもまれながら、王冠、宝珠、王笏、刀剣のずらり並ぶ地下室へ。

〃〃〃〃〃〃〃偉大なアフリカの星〃　と呼ばれる五三〇カラットの王笏のダイヤモンドには喚声がもれるのみ……、ものの本によればビクトリア女王の戴冠式のためにつくられた王冠は三〇九カラットの〃第二のアフリカの星〃をはじめとする、二八〇〇個のダイヤモンド、二七〇個の真珠十七個のサファイア、十一個のエメラルド、五個のルビーが散りばめられていると書かれている。このような王冠がずらりと並び、黄金ばゆいカップ、刀剣が飾られ、かつて七つの海を制した英王室の巨大な富を誇示している。

〃〃〃〃〃〃〃断頭台と首切りおの　一四八三年幼いエドワード五世も幽閉され殺害されたと書いてあるから、この断頭台の犠牲になったのだろう。台には使用された斧の断口が深く刻み込まれており無気味さをただよわせている。

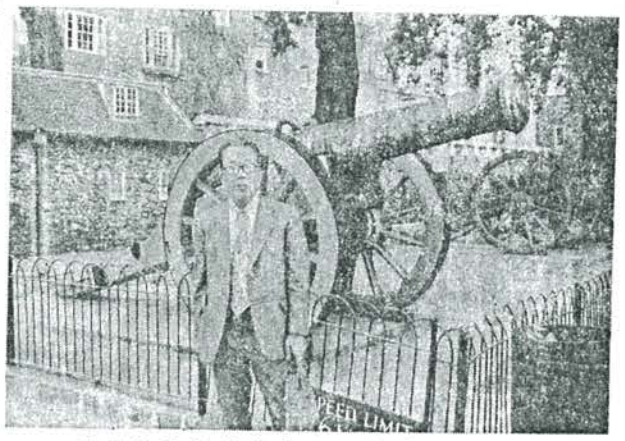
塔から出て、フランスからの戦利品だという大砲のそばで写真を撮る。

五時過ぎスツランド通りにあるスツランドパラス、ホテルに到着する。トラファルガー広場へは歩いてすぐである。

ヨーロッパ最初の夜、このホテルは老英大国の名にふさわしいような尊大な構造の古めかしい造りである。夕食に揃って地下の食堂に降りる。一同正装である。女先生の華やいだ衣装が一きわ美しい。中年のメイドといかにもイギリス人らしいマスターが自慢しながら料理を運んでくれたが味はきわめてお粗末である。ビール、ワイン代は各自支払いである。おつりに日本の十円をくれたので、メイドと英語でやりとり大笑いをする。

日本との時差八時間、夜と昼が入れかわった感じで仲々寝つかれない。気候は日本と全く変らず合服が暑苦しくうらめしく思う。しかし空気はさらっとしていて日本のような蒸し暑さは感じられない。

（つづく）



フランスからぶんどった大砲の前で

日本の子供にも国際マナーを

県職の顔ぶれ

異動による

木戸蚕業指導所長 退職

四月一日付の県職異動により、大豊関係（普及所、蚕業指導所、林業指導出張所）の方々が次のようにそれぞれ転出入されました。

▼転出者

○内は大豊在任年数‖技監横田茂満佐⑦中央農業改良普及所伊野支所、北村正和③土佐農業改良普及所、山崎和子④須崎農業改良普及所、蚕業指導所長木戸伝蔵⑤退職、小谷武二①土作山田蚕業指導所長、寺峰孜⑤同田野駐在所、中越重丸⑥安芸林業事務所。

▼転入者　（　）内は旧所属、技監浜潟淳一（安芸農業改良普及所田野支所）、尾崎勉（宿毛農業改良普及所大月支所）、沢本土佐男（安芸農業改良普及所）、山本カズ（土佐山田農業改良普及所）、蚕業指導所長片岡二郎（西土佐蚕業指導所）佐田雅稔（土佐山田蚕業指導所田野駐在所）、岡林泰幸（新採）

山本さん（杉駐在）が退職

駐在保健婦では、大杉駐在山本良恵さんが退職され後任として、山田保健所から楠瀬満さんが、東豊永駐在の岡宋さんが山田保健所へその後任として新採の西内さんが就任されました。これにより、大豊町内駐在保健婦さんの顔ぶれと担当区域は次のようになります。（　）内は担当区域

▼楠瀬満（大杉、西豊永東部地区）▼村上藤野（西豊永地区）▼浜田美恵子（天坪、穴内地区）▼山本保子（立川地区）▼西内美佐子（東豊永地区）

大田口地区を皮切りに

高校父兄連絡協議会支部

親達の横の連けいが大切

去る三月三十日、大田口校下に高校父兄連絡協議会大田口支部が発足した。

この地区には五十余名にのぼる高校生が列車通学、又は下宿先から通学しているが、これらの若者をとりまく数多くの問題を、地域ぐるみでお互いに話し合いながら、現代若者の考え方や行動の実態を把握し、理解を深め、ひとの子、わが子の分け隔てなく健全な成長を願おうというのがこの会のねらいである。地域連帯性の欠如、生活の孤立化などによって、ひきおこされてきた親達の悩みや、さまざまな問題がこの会で話し合わされ解決されてゆくところに大きな意義がある。

当日、集った父兄は三十名、それに少年補導育成センターの永井先生、中西中央公民館長。忙がしい毎日の仕事に追われてあまり気付いていなかった問題等も数多く出され、話し合いの結果、町内全体の組織づくりが必要とされるので名称も『高校父兄連絡協議会大田口支部』として、支部長大利光吉、副支部長三谷福晴の両氏を決定し諸活動の実践に乗り出している。

続いて大杉地区においても、五月一日同じ要領でこうした会が開かれ、約二十名が集まって『大杉支部』を結成、支部長小笠原恒子さん、副支部長山内幸子さんを選んだ。

①弁当は愛情あふれる手づくりのものがつくられているだろうか②各家庭間において持たせる小使いに格差がありはしないだろうか③親子の話し合いは出来ているだろうか④繁藤駅や新改駅などでの停車時間の短縮などダイヤ改正陳情も地域ぐるみで⑤国鉄のストに伴う通学も個々の行動をとらずに地域連帯性に基づく協議会の名で、バスをチャーターして続く通学させることがよいのではないかなど、それぞれ活発な話し合いが行われた。

町内各地区にこのような会が出来て、連合組織のつくられることが期待される。

尚、天坪、穴内地区でも近々のうちに支部結成がなされそう。

点検して下さい

家庭のおきくすり

―本山保健所―

古い歴史をもち、みんなに親しまれてきた家庭の常備薬（おきくすり）の中で、副作用が強く、昭和四一年から家庭への配置が不適当であるとして削除されたものに『アセトアニリド』と『キニーネ』があります。

これらは主に、かぜ薬の解熱剤として利用されてきましたが、皆さんのご家庭のおきくすりの箱の中には頭痛やかぜ薬に用いることのアセトアニリドやキニーネを含んでいるものがありはしないか点検してみて下さい。もし、あった場合は絶対にのまないようにして下さい。

この薬は、四十六年以前に製造されたもので、四十六年に禁止されてから業者が回収せず、ご家庭に残っていることが考えられます。副作用として、アセトアニリドはチアノーゼ（唇や爪が紫色になる症状）や血液障害をおこし、中毒がひどいと赤血球が溶けてひどい貧血を起こします。キニーネは乱用すると、溶血作用を起こし血尿や血便を排出することがあります。

他のおきくすりの取り扱いとして、古い薬や外観に異状が認められるような薬は使用しないこと。湿気日光、高温を避けて保管すること。乳幼児、小児の手のとどかないところに保管するようにしましょう。

大麻、けし撲滅

運動についてお知らせ

ことしも五月一日から七月三十一日まで、『不正大麻・けし撲滅運動』が展開されます。

この『大麻』や『けし』は、麻薬などに使用されるので、勝手に栽培することが禁止されており、もし違反した場合には法律によって罰せられます。

昨年は、本県でも大麻の不正栽培者三名、けしの不正栽培者十四名が発見されそれぞれ送致等の処置がとられております。このほかに、自生のけし三箇所、四十二株が発見され焼却処分を実施しました。

尚、けしには観賞用として植えてもかまわないけしもあるようですから詳細は役場衛生係へお尋ね下さい。

生活学校生募集のお知らせ

⊙七月から、婦人を主体とする『大豊町生活学校』を開校することになりました（月一～二回程度）

⊙開設場所は中央公民館を中心に、地区公民館を巡回しながら開くことも考えられますが、具体的には生徒が決定してから話し合って決めます。

⊙生活学校での勉強内容は生活に身ぢかで、大豊町全域に関係の深い問題であって、大きく広い範囲で処理していかなければならないような生活上の諸問題や消費問題、物価、ゴミなど日常生活に影響のある諸問題ばかりです。

⊙立派な講師を招いて色々な話を聞くこともできますが、これに要する個人負担はいりません。

生涯教育の観点に立って生活学校で勉強を希望される方は、ハガキ又は電話で教育委員会生活学校係までご連絡下さい。

⊙申し込みは六月二十日まで、電話②〇四五〇番、有線三二六〇番